

令和6年7月30日

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

事業所名称・・・グループホームこころ

サービス種類・・・認知症対応型共同生活介護

文書発送日・・・令和6年7月30日

出席者（発送先）

事業所	1人	利用者	人
利用者家族	人	地域代表者	1人
松江市職員	人	包括支援センター	1人
知見を有する者	人	その他 (陽恵苑職員)	3人 (DS1名、GH2名)

議題・課題

○現状報告 別紙参照

○活動報告 別紙参照

○地域との関わりに関する事項（コロナ対応について） 別紙参照

○医療連携に関する現状・・・ 別紙参照

○出席者コメント

地域包括支援センター…

虐待案件の方の受け入れなど迅速な対応をしてもらってありがたい。
介護負担による身体暴力など、相談件数も増えている。
今後もよろしくお願いいたします。

地域代表者、町内会長様…

今年は上竹矢で夏祭りを予定している。
町内会費を払っていただいているので、よろしければご参加ください。

※事業所確認欄

☐ 活動報告についての評価を受けることができたか。	○
☐ 要望・助言等を受ける機会を設けたか。	○

地域密着型サービス 運営推進会議 グループホームこころ現 状 報 告

令和 6 年度 第 2 回 会議

令和 6 年 7 月 29 日

入居者状況(令和 6 年 7 月 29 日)

Aユニット 男性 2 名 女性 7 名	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
	3 名	4 名	0 名	1 名	1 名
	平均介護度	2.22	平均年齢	88.77 歳	82～96 歳

Bユニット 男性 3 名 女性 6 名	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
	3 名	2 名	1 名	3 名	0 名
	平均介護度	2.44	平均年齢	87 歳	74～97 歳

○入退居について

7/18 Aユニット 1 名退居

7/19 Aユニット 1 名入居

現在両ユニット満床で運営しています。

○待機者、相談状況について

- ・待機申込者 2 件（在宅 1 名、施設 1 名）
- ・空き状況の問合せ数 2 件

○活動・行事について

Aユニット

キックボーリング…ボーリングの日にちなみ、ボールを蹴ってピンを倒していただきました。納得いくまで何度もチャレンジされる方もおられ、楽しんでおられました。

スイカ割り…利用者様のご家族様から頂いたスイカを使用しました。

スタッフの子どもさんにも参加いただき、入居者様がとても喜んでおられました。

花火…夏の風物詩として、実際に入居者様に手持ち花火を実施していただきました。

七夕…笹を準備して、皆様に思い思いの願い事を書いていただき飾らせていただきました。

Bユニット

6/30 お茶会の中でトイレットペーパーの芯を飛ばすゲームをさせていただきました。

7/20 室内花火実施 火災報知器を一時的に止めて、暗幕を張って入居者様に手持ち花火をして頂きました。

○今後の行事予定

- ・Aユニット：8月に『夏祭り』8/26 予定、9月は計画中
- ・Bユニット：かき氷 8/25 予定

○職員活動状況（研修状況）

- ・株式会社サン・リンク＆社会福祉法人陽恵福社会合同 内部研修についての報告（別紙参照）
 - ・ 6/13 無理、ムラ、無駄をなくそう（一般職員対象）5名参加
 - ・ 6/27 仕事の進め方（役職者対象）4名参加
- ・認知症介護基礎研修 5名受講中、内1名修了
- ・グループホームこころとしての研修
 - ・ 6/21 火災報知器の研修会（防災委員会より）
 - ・ 7/19 自力摂取の食事介助（研修委員会より）
- ・認知症介護実践者研修について
 - ・ 6月、7月に各2日間の認知症に関する研修を受け終わり、現在は自施設で一人の入居者様にスポットを当ててレポートを作成しています。
 - ・ これまでの認知症ケアについて自身のケアを改めると共に、現場の職員の方に広めていけたらと思案している。

○利用者様の状況

- ・新しい入居者の方が加わり、生活環境が変化しています。気温が高い日が続き体調等の身体的変化だけではなく、精神的な側面のケアも必要になっております。

○医療連携について

- ・4月中旬ごろから時々発熱を起こしていた利用者様について今回はあげさせていただきます。主治医に市立病院を紹介いただき、4月下旬に肺の検査を行うための検査入院をされました。原因不明により治療が行えずそのまま退院されました。その後対症療法として解熱剤を使って、熱発の度に内服して解熱するという繰り返しでした。6月下旬のある日、解熱剤を用いても中々解熱されず、状態を観察しておりました。「いつもの発熱とは違う」という職員の不安もあり、ご家族様と主治医と連携したことで、病院で検査することとなり『IgG4 関連疾患』という指定難病を発見することとなりました。退院後はこれまでの生活が一変して、活発に動かれるようになりました。この指定難病ですが、軽度の段階では中々発見されにくいということ由市立病院の先生より説明を受けました。重度で発見された場合はメスを入れて治療を行うこともあるそうで、ご家族の方もとても安心しておられました。前回の推進会議でもお伝えしましたが、「少しでもおかしいかも」と感じた場合は医療機関との連携を図って動いていきたいと思います。

○ご家族様とのかかわりについて

・面会については、事前予約をして頂き応接室で15～30分とさせて頂いています。県外の方には面会条件を設け、お伝え・お願い・確認を行っています。県外から中々帰ってこれないご家族様については、電話連絡を時折させて頂いています。6月下旬までは衣替え等をご家族様に居室に入ってもらい頂きお願いするなどしておりました。しかし依然としてコロナが流行っておりますので、注意していただきたいと思います。

○ヒヤリハット・事故報告について

【事故報告】6月 計 2件、7月 計 3件 【ヒヤリ報告】6月 計 1件、7月 計 2件

Aユニット

6/1 服薬ミス（事故）

薬をセットする際、前日の眠前薬がケース内に残っていた。

- ・日付、氏名、残薬は無いかを目視で確認後ダブルチェックを継続。中身は鉄剤であり、毎日飲むものではなく、二日に一回内服するように指示されているものであったため、職員自身も見落としてしまった。

7/7 6:50 転倒（事故）

他の入居者様支援中、センサー鳴動。訪室すると、センサーマット上に手と膝をついた状態であった。いつもベッドに端座位で朝にお化粧をされている。側に化粧品が落ちており、それを取ろうとして転倒したと本人様談。センサーマットは本人様から若干離れた位置に設置していた。

- ・化粧は共用ホールの食事をされる席か、共用ホール洗面所で実施していただく。食事の席でお化粧をされていると、他の入居者様より「ここは食事するところよ」と言われたことがあったので、時間帯や場所を検討していく。

7/22 16:50 転倒（事故）

自立の方で、トイレに向かわれる途中転倒。膝から脱力したように倒れられた。普段足を組んで座っておられる事や血圧が低いため転倒したと思われる。

- ・ホールでの動き始めは職員も注意しておく。居室でも転倒のリスクがある為、赤外線センサーを設置して様子を観察する。

7/23 13:55 転倒（事故）

前日の転倒者であり、同様にトイレに向かわれようとして転倒。右足首が痛いと言われるので、ベッド臥床いただくが、数分後に訪室して様子確認すると「痛いところはない」と言われる。

- ・これまで転倒リスクが少ない方であったが、元々血圧も低い方である為、共用ホールでの歩き始めは職員同士で声をかけあって、様子を見守りする。

Bユニット

6/12 19:50 転倒と皮膚剥離（事故）

帰宅願望が強く、鍵のついた引き戸を強く引っ張られたことで戸が外れて、本人様の右下腿に三日月状の剥離が出来る。ドアが外れても興奮が治まらず、職員の腕を引っ張られ、そのはずみで職員と共に転倒する形となる。

・ 興奮すると周りが見えなくなるので、否定形の言葉を使わずに話題を変えたり興味のある事に誘うなどして、本人様の思いを傾聴する。

6/16 8:10 落葉（ヒヤリ）

共用ホール洗面所下に薬が落ちているのを発見する。内容物確認すると、A様しか内服されていないことが分かる。すぐにA様に内服していただく。

・ 自分で飲まれる方で、量が多い場合は一度に提供せず、分けて提供するかスプーンで直接職員が口に入れて差し上げるなどして落下を防ぐ。服薬中は職員が視線をそらさないようにする。

7/16 11:00 すり落ち（ヒヤリ）

Pトイレからベッドへの移動時、介助していたが、途中で下肢に力が入らなくなり、そのままゆっくり床に座って頂く形になる。

・ 土日みの時短パートさんが対応を行っていたが、通常の現場職員によるADL情報の報告を怠っていたので、応援で来てもらっているパート職員さんにも分かるように情報の共有を行う。

7/19 15:10 すり落ち（ヒヤリ）

15時のお茶のお誘いをして、リビングへと出て来られる。自席に座る際、座面よりも体が少しずれて座り損ねた形となる。真横に職員が配置していたため、床へゆっくりと座って頂く形を取って大事にならず。

・ リビング内にいる職員が見守り、声かけを行う。